

## 第二十回 忠順大賞

(令和七年度)

### 入賞作品

・応募総数 一三三六首

・久米翠雲先生 選評

### 小学生の部

豊田市長賞

駒場小学校二年 礪部 旭

にいちやんに手をひかれいった

学校へ

つぎはいもと ぼくが手をひく

\*ぼくが一年生の時、兄がぼくの手をひいて学校へ連れて行ってくれた。今度はぼくの番。二人の姿が浮かぶ。兄弟愛がいいですね。

豊田市議会議長賞

堤小学校六年 奥 奏音

ありがとう毎日使ったランドセル

小さく感じた六年生

\*一年生の時は、ランドセルが重く大きく感じた。おかげで、背も伸び、体が大きくなって、ランドセルが小さくなった。感謝の思いがいい。

豊田市教育委員会賞

駒場小学校六年 北島 蓮翔

年の瀬にいとこそろってしめ縄を

祖父に教わり笑いあふれる

\*縄をなうこと自体少なくなつた今。祖父に教わりながらしめ縄をなう。素晴らしい。上手くなえなくても。皆、和気あいあい。

中日新聞社賞

堤小学校三年 浦田 芳華

クリスマス サンタこないよ

まってるよ

だいこうサーブिस ママサンタきた

\*非常に楽しい。詠者は全て分かっている。下の句が現代っ子の感覚や生活の様子を理解している。すごいですね。

会長賞 金賞

堤小学校三年 佐々木裕梨

ひとつずつリリースにおかしさがったよ

食へおわるころにはクリスマス

\*輪飾りに、自分の好きなお菓子を飾った。持ちきれずに食べ、クリスマスには無くなった。楽しい!!

会長賞 銀賞

堤小学校六年 松川 柚華

遊園地ひとりでのったコースター

さげすぎだよとなりのおじさん

\*相席のおじさん。大人なんですよ。怖がりのお隣さん、もう乗らない方が。痛快な作品だね。

会長賞 銅賞

堤小学校四年 井村 梨杏

パズル会 さいこの一つはめたとき

さむい冬でも心ぼかぼか

\*「出来た！」嬉しさ、達成感。井村さんは、それを下の句で、十分表現しています。いい作品です。

優秀賞 (三名)

堤小学校一年 杉浦 壮馬

さつまもスイートポテトに

大へんしん

みんなでぞだてた おもいでのあじ

\*さつまもを苗から育てたんだね。頑張った分のおいしさがある。良かったね。上の句が面白い。

駒場小学校六年 榊原 望来

いるかもなダイママークのその先に

ゆっくり走り 止まってどうぞ

\*お母さんの運転で感じたことを聞き、調べたんだね。すごいよ。思いやり運転を身に付けたね。

堤小学校二年 杉浦 伊織

どくしよはね あっというまに

すぎていく

今日も行こうかひみつのせかい

\*本好きの伊織君。素晴らしい。読むのも早い。下の句が良い。楽しく読書が続けてください。

\*\*\*\*\*

### 中学・一般の部

豊田市長賞

稲武町 林 泰子

夫(つま)逝きて一周忌すぎ秋の暮

くせになりたるため息ひとつ

\*夫が亡くなり一年経つのに想い出すばかり。秋の暮れは寂しさを誘う。下の句から切なさが滲む。

豊田市議会議長賞

岩倉町 宇野真知子

子を育て夫を支えて家(や)を守り

一途に生きて母は逝きたり

\*下の句の「一途に生きて」から昭和の母親の姿が浮かびます。子、夫、家を守って逞しく生きた一生。

豊田市教育委員会賞

前林中学校二年 原 慧吾

息白くよいしよよいしよとつく餅で

地域をつなぎ 心はほかほか

\*今はとかく地域をつなぐ力が弱まっています。自治区の大人から子供ら参加の餅つき行事。凄い。

中日新聞社賞

前林中学校三年 金子 史佳

初運転助手席に乗り横を見る

気づけば姉は大人になって

\*姉が車の免許を取る。初乗り。下の句は親の感覚ですね。姉弟仲良しの思いが伝わってくる。

会長賞 金賞

前林中学校二年 中村 美咲

おととと仲良く遊ぶサッカーで

姉は息切れ おととと元氣

\*姉弟仲良くサッカーを。弟は今何年生？まだまだ負けないで！美咲さんはまだ中二ですから。

会長賞 銀賞

前林中学校三年 塩崎 伊織

三年間使い続けたカバン置き

ひらいて見れば新たな地図が

\*三年間使い続けた鞆。そこには僕の歴史がある。また新たな僕の未知の世界が広がる。良いよ。

会長賞 銅賞

前林中学校一年 手寫 華菜

寒い朝祖父母と作ったかがみもち

冬を飾った大切な思い出

\*師走の暮れ。正月用の鏡餅。祖父母とお話ししながら楽しく作った。一緒に作れたのが最高に良い。

優秀賞 (三名)

中田町 柴田 文志

秋に汗 老コンバインうなる音

豊作だぜと機械(あたま)をなでる

\*老コンバインが頑張ってくれた。「老」に長年の重みがある。下の句が良い。いい秋の汗ですね。

前林中学校一年 折田 歩結

秋の空響きわたる産声は

新たな命に家族は涙

\*元気に生まれた子の産声。澄み切った秋の空に響く。無事生まれた生命に、家族の感動の涙。

前林中学校三年 石川 光咲

打楽器のリズムと鼓動重なって

指揮棒めがけ一音入魂

\*プラスバンド部の晴れの舞台、コンクールにおける意気込み。下の句から凄いい集中力が伝わる。

※無審査

「市長賞」授賞歴のある三名の方の優れた作品を無審査としました。

前林町 酒井 雅子

湯たんぼの昭和の漂う温もりは

母に抱かれた遠い日のよう

\*戦前のブリキ(トタン)で出来た湯たんぼ。穏やかな温もりが母を懐かしく想い出させる。

高岡町 早川 寛子

猛暑日の暮れて望月澄み渡り

眺める庭に虫の音流る

\*まだ猛暑日の暮れ、スーパームーンを見上げている。庭のどこからか、虫の音が。征に秋の風情。

駒場町 清水 宣子

寒のうち籠もり進めし手仕事の

今日は仕上がる雛の絵キルト

\*やや暇な時期、ひな祭りの近い時期。好きな趣味の一つ、キルト。今日は完成。嬉しい、楽しい。

※作品表記は原文のまま。

\*\*\*\*

今年も総数一三三六首の応募を頂き、久米翠雲先生による最終審査により二十三名の方が入選されました。おめでとございます。

応募作品を拝見していきまして、思わず笑みが漏れたり、そうだよな…と頷く作品がとても多かったように思います。小、中学生の皆さんの痛快とも思える表現の仕方にとっても感動いたしました。このまま忠順翁のように短歌を生涯の友として作品を詠んでいつてもらえたらと願うばかりです。

一般の方も地域内外から沢山の応募を頂きました。二十回目を迎えます。改めて感謝と和歌の広がりを感じています。

授業、行事などで大変お忙しい中、指導・協力していただいています小学校、中学校の先生方、応募していただいた大勢の方に感謝致します。

(事務局 川村)